

言葉のちよう戦

一宮西部小・五 山口 航聖

ぼくは、言葉がつまってしまいうきつ音だから、言葉が思うようにすらすら言えなくてこまっている。自こしようかいのときや、発言、発表のときにすぐいやな気持ちになる。ドキドキするなあ。不安だなあ。そう思ってしまう。カタカタカタカタ。体のふるえが止まらない。いやだなあ。いやだなあ。ついにぼくの番がきた。「…こつこれで発表を終わります。」

パチパチパチ…。またたくさんつまっちゃった。たまに泣いてしまふときもあった。だからぼくは、話すことがきらいになってきた。発言も記号などの短い答えのときしか手を挙げない。ぼくは、きつ音をなんとかして治したかった。

そして、ぼくはきつ音をなおすために、言葉の教室に入った。毎週月曜日にオンラインで練習している。先生と本を一行ずつ読んでいく練習だ。言葉の教室をやっていると、だんだんきつ音がなくなつていつてすらすらとしゃべれるようになってきた。先生に

「だいぶすらすら言えるようになったね。」

と言ってもらえて、ぼくは思わず

「はい！」

と、言ってしまった。練習が終わると、ぼくは心の中で

「ヤッター。」

と、さげんでいた。じまんでできるようになった。だけど、友達と数

人で話すことはできるけれど、大勢の人の前で発表するのは、前と変わらずたくさんつまってしまう。

「くそー。何でなんだ。」

と、ぼくは思った。まだ、きんちようするとつまることがあると分かった。

そして、ぼくは、練習を一生けんめいがんばろうと思った。ぼくは毎週毎週がんばった。きんちようしてもすらすら言えるようになんばった。そして、前よりもさらにすらすら話せるようになった。ぼくは、次に発表するときがどうなるか気になった。

そしてついに、発表する日が来た。うまく言えるかドキドキした。ぼくの番が来た。落ちていてあせらず発表した。

「これで終わります。礼。」

パチパチパチ…。今回は、前よりもつまらずに終わった。ぼくは、すごくうれしかった。その数日後の英語のスピーチテストもすらすら言えた。家に帰ってぼくが、

「スピーチテスト、すらすら言えたよ。」

と言うと、お母さんが、

「よかったね。」

と言ってくれた。

ぼくは、始めと今では言う速度がすごく速くなって、ものすごくうれしかった。これからも練習をいっぱいして、言葉がつまることを絶対になくせるようにもつともつとがんばろうと思った。これからも発言や発表を続けられるように努力していきたい。